

神学校週間によせて

2019年6月23日 [H] ~ 6月30日 [H]

共に主の働きを担う「同労者」として

日本バプテスト連盟常務理事 中田義直

イエスさまがペトロに対して特別な委託をしたことを聖書は証言しています。ですから、ペトロが初代教会のリーダーであったことは確かでしょう。しかし、イエスさまはペトロだけでなく、「弟子たち」に「働き」を託されました。イエスさまは使徒として複数の弟子を立て、「自身の昇天の後、教会の働きをチーム「使徒」に託されたことも聖書の証言するところです。

私たちは「神学校献金」を通して、神学生を支えています。主の働きを担う伝道者の養成のために、祈りと具体的な支援を通して支えるのです。そして、忘れてはならないことは、「支える者」と「支えられる者」とが主の働きを担う「チーム」であるということです。

この「チーム」は神学生の間だけではありません。卒業し、教会に遣わされて信徒と牧師という関係になってもチームであることは変わりません。日本バプテスト連盟では教会形成のための出版物を発行していますが、そのひとつに『執事/役員と牧師の協働』(2007年発行)というテキストがあります。バプテスト教会の教会形成にあって「協働」は重要なキーワードです。

そして、「神学校週間」と「神学校献金」とを繋ぎ、協働して主に仕えるチームとする働きといえるでしょう。私たちは祈りと具体的なサポートを通じて、神学生とチームとして結び合わされていることを確認しつつ、神学校週間を歩んでまいりましょう。



「説教演習」授業風景



「神学入門」授業風景



「教会形成論」のインターネットライブ授業風景



◎神学生の証し◎

終わることのない学び



川久保拓也
西南学院大学大学院
博士前期課程2年
(ふじみ野教会推薦)

西南学院大学神学部での学びも4年目を迎えました。神学部での歩みを振り返ってみると、本当に多くのことを学ばせていただいた時間だったことを思い返します。

西南学院大学神学部での学びには3本の柱があります。第1の柱は、大学での神学の講義です。ここにおいて、将来、み言葉に仕える牧師の神学的基盤を整えられていきます。第2の柱は、毎週礼拝に出席している研修教会での学びです。将来、教会形成をどのようにしていくのか、実際に研修教会の牧師の牧会を見ながら実践的に学びます。そして第3の柱は神学寮での生活です。将来、牧師としてどのような人間関係を築いていくのかを寮の中での共同生活を通して日々学びます。

これらの1つひとつの学びを振り返ってみたときに、それらの学びは決して神学部の学びだけで完結するのではなく、遣わされていく教会においても終わることなく続いていく学びなのだということに改めて気づかされました。神学部での学びはいわばそのスタートラインであり、これから先も「神学を学び続けていくための学び」と言えます。神学の学びは、日々新しくみ言葉と出会い続けていくために、また教会を立て上げていくために、そして隣人と共に生きていくために、これから先も終わることなく続いていくことだと思えます。だからこそ、日々神さまに求め求めながら、卒業までに残された神学部での学びの時を大切な備えの時として歩んでいきたいと願っています。

主が導かれる出会いと出来事の中で



近藤浩久
九州バプテスト神学校
牧師コース1年
(春日原教会推薦)

『求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。誰でも、求める者は受け、探す者は見つけ。叩く者には開かれる。』(マタイによる福音書7章7-8節)

いつも神学校を覚え、祈りとお支えをいただきありがとうございます。私は、九州バプテスト神学校に入学して5年目を迎えます。主からの招きにもっと応答したい、キリストの忠実な弟子として生きたい、このような気持ちが起こされ入学しました。神学校の学びを続ける中で、学ぶことによつて子どものような主への信頼と委ねに併せ、自らの信仰の吟味の大切さとを改めて強く知ることができました。

冒頭のみ言葉は、私の求道時代に遡ります。聖書と共に当時の牧師から贈られたみ言葉です。献身するに従い、次第に私を導く言葉となりました。イザヤ書の1章にも『主が言われる。さあ、論じ合おう』と私たちに呼びかけられます。聞くだけでなく1人ひとりと直接対話することを望んで、永遠の命に従って生きるように主は求め願われます。

今年度から、研修教会として和臼バプテスト教会で学ぶことになりました。主が導かれる出会いと出来事の中で、これからは主は必ず用いてくださると信じます。

キリストの寄り添い、十字架で示された愛と赦しの福音を、1人でも多くの方に伝え、共に喜び合えるよう、教会とこの世とに仕えていきたいと願っています。

感謝、学びと準備の時に



藤原靖彦
東京バプテスト神学校
神学専攻科2年
(港南めぐみ教会推薦)

神学校の働き、神学生の学びを覚えている皆さまのお祈りに感謝いたします。

私は、職場の移転で2011年から住み慣れた長崎を離れ、7年余り神奈川県に単身で赴任しています。職場の環境が変わったことによつて、東京バプテスト神学校で学ぶ機会が与えられ、2016年に本科を卒業。そしてその後2年の期間に多くの課題が解決していったので、2018年度より専攻科に入学し、学びを再開することができました。

そして、専攻科を修了する予定の来年春に60歳の節目を迎えます。

私は今、神学校の講義や、教会での奉仕・交わりを通して、牧師になるための学びと準備をしています。1人暮らしなものですから、周囲の人の「祈り」を知るたびに、また「声」を掛けていただくたびに、1人ではないことを実感します。私は鈍かったのでしょうか。今頃になって、「神様からの恵み」、「周囲の人からの祈り」に気づき、感謝している次第です。(今だからこそ気づいたと思います)

「み言葉」の取り継ぎをすることによつて、出会った方々に平安が齎される。それが、私の喜びとなればと希望しています。そのためには、聖書の知識・理解の学びのほか、分かりやすく語り、そしてなによりも、聞く人の心に通じることが必要です。「み言葉」を語ることは、畏れ多いことですが、私は弁舌が立つわけでもありません。だからこそ、神さまに祈りながら「み言葉」を取り継いでいきたいと望んでいます。